美波町「塀」デザインコンテスト審査結果

1.　審査概要

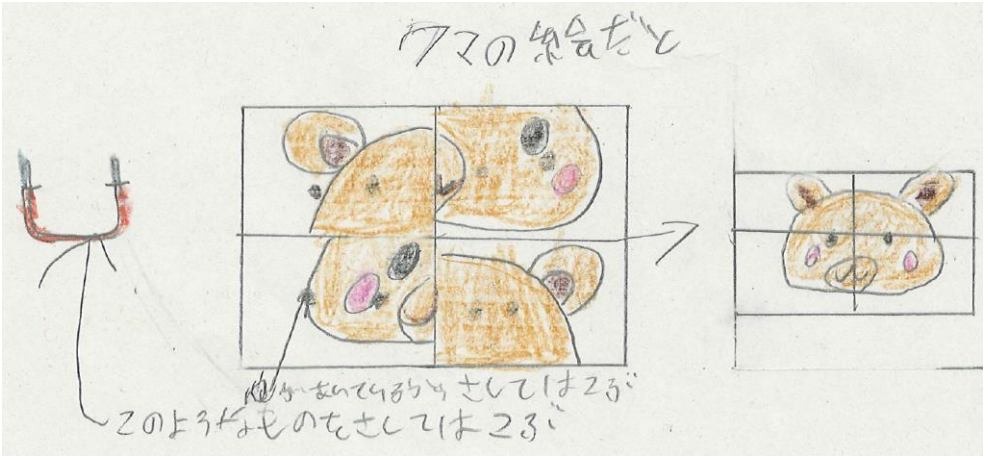
日時	令和３年１月１２日（火）１０時～１２時
場所	美波町由岐支所１階　会議室　（海部郡美波町西の地西地５０－１）
審査会 メンバー （敬称略）	審査委員長：由岐湾内防災まちづくり協議会　酒井勝利（協議会会長） 審査員：美波町消防防災課　前野充則（事業主体） 審査員：徳島大学　上月康則（研究機関） 審査員：徳島県建築士会　笠井義文（専門家） 審査員：徳島県県土整備部　追谷奈緒子（県行政・女性視点） 事務局：美波町由岐支所　浜大吾郎（事業主体） 事務局：一般社団法人さいわい　井若和久（委託事業者）

2.　審査方法

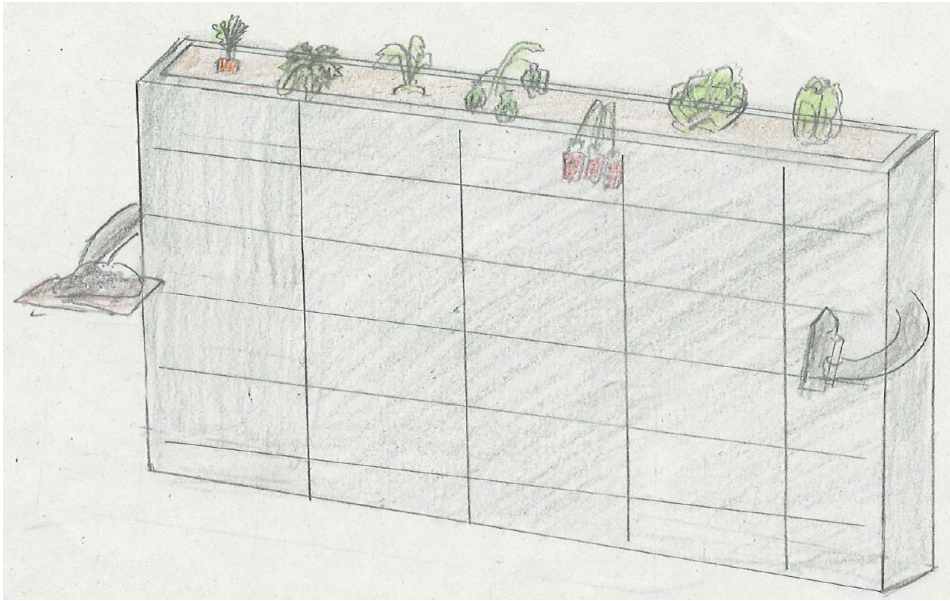
- 審査は、審査員全員による意見交換を踏まえて、審査委員長が最終決定する。
- 応募作品の中から、テーマ①とテーマ②、それぞれ最優秀賞と優秀賞に相応しいと思う作品を選定する。
- また、テーマ①とテーマ②問わず、特別賞に相応しいと思う作品を合わせて選定する。
- なお、該当すると思われる作品がない場合は、無しとする。
- 事務局は、審査過程を踏まえて、受賞作品および選考理由を記録しまとめる。

3.　受賞作品

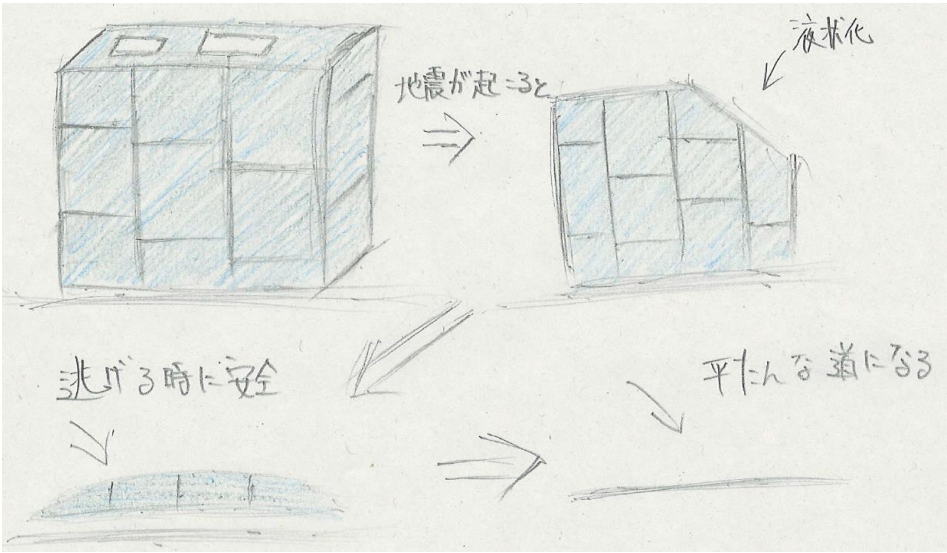
【最優秀賞】

氏名	矢倉　悠斗
テーマ	テーマ①：家を安全・快適にする塀（多機能に優れた塀や新しい機能をそなえた塀等）
タイトル	とりはずしできる塀
コンセプト （想いや理由）	パーツを自由に組みあわせて、使いやすい塀をつくりたい。 取り外しできるため、パズルにもなる。
デザイン案 （絵と説明）	
選定理由	パーツを自由に組み合わせて様々な機能をもたせ、まさに多機能な塀になっている。 また、災害時に撤去可能で、操作上の取手なども考慮されているところが秀逸である。 構造がパーツの組み合わせなので塀全体の強度に不安があるが、強度を満たす構造にできれば実現できそうである。

【最優秀賞】

氏名	川西　萌依
タイトル	テーマ②：町を魅力的にする塀（由岐らしさを生かした塀や由岐の街並みを良くする塀等）
タイトル	自分自身の管理＆栽培機能付きブロック塀
コンセプト （想いや理由）	自分でセメントをぬる。 由岐の地域で野菜を育てている。
デザイン案 （絵と説明）	
選定理由	自分自身で塀を管理するという発想が面白い。また、塀そのものが栽培機能を持つという自然を取り込んだ構造物の考えが、ある意味未来の環境を提案している。現在町を魅力的にする塀として緑化が多用されており、維持管理が大変なことが課題となっているが、野菜栽培であれば自分自身で維持管理もできて、かつ町の緑化にもつながるので、魅力・機能ともに素晴らしい。フレームさえしっかりつくれば、プランターを置くだけでも、直ぐに実現できそうである。

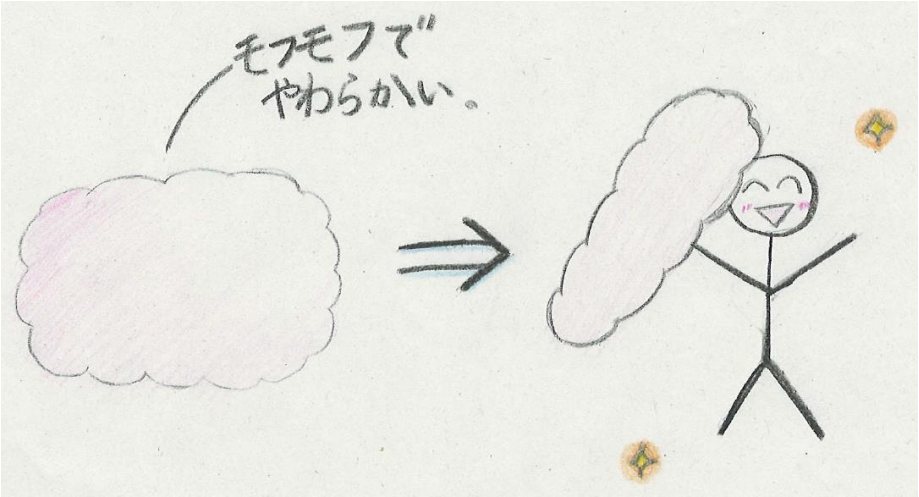
【優秀賞】

氏名	西本　禮
テーマ	テーマ①：家を安全・快適にする塀（多機能に優れた塀や新しい機能をそなえた塀等）
タイトル	バイオマス液状化塀
コンセプト （想いや理由）	災害時に逃げる時に危険だから、バイオマスで自然に優しく 液状化で逃げる時が安全だから
デザイン案 （絵と説明）	
選定理由	バイオマスという素材の着想、倒れた時の自然分解による被害回避、また、地震時の地盤現象からの連想で自動的に液状化する機構などの発想が優れている。直ぐには実現できそうにないが、このような発想から新たな技術が生まれる可能性があり、将来に期待したい。

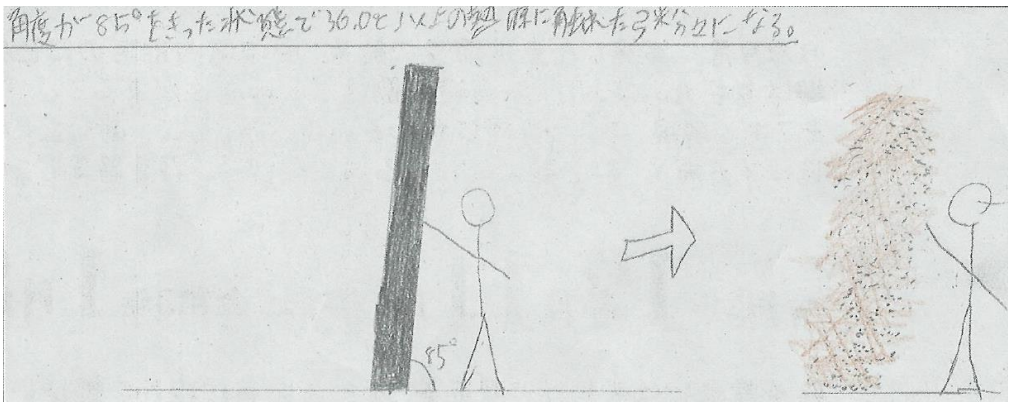
【優秀賞】

氏名	油津　妃依
タイトル	テーマ②：町を魅力的にする塀（由岐らしさを生かした塀や由岐の街並みを良くする塀等）
タイトル	水族塀
コンセプト （想いや理由）	由岐らしさ（魚）を使いたかった。 水族館に行きたかった。
デザイン案 （絵と説明）	
選定理由	由岐らしさを魚、水族館に象徴させて、植物と一緒に塀に組み込んだところがシンプルで良い。塀を見ることで、通行人も楽しめる。シリーズ化や連続性があれば、魅力的な街並みになる可能性がある。

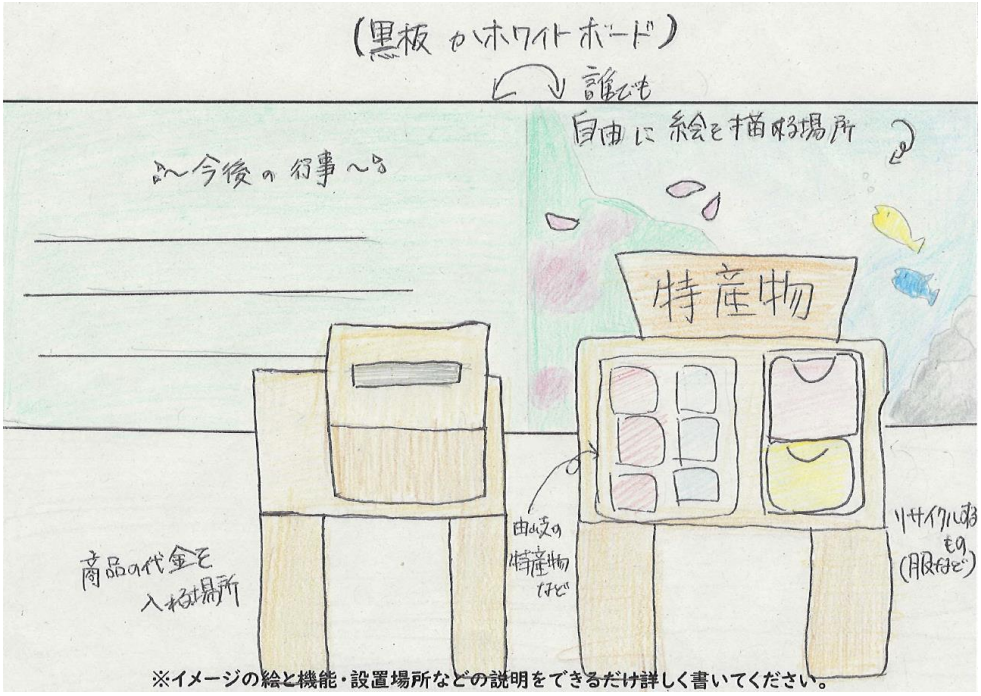
【特別賞】

氏名	木元　心晴
テーマ	テーマ①：家を安全・快適にする塀（多機能に優れた塀や新しい機能をそなえた塀等）
タイトル	クッション付き塀
コンセプト （想いや理由）	倒れてきても痛くないし、ケガもしない。 モフモフしていやされる。
デザイン案 （絵と説明）	
選定理由	防災学習で、ブロック塀は倒壊すると危険なので、触れない、近づかないと教えているが、クッションつき塀は倒れてきても、痛くない、ケガもしないので、安全で良い。また、モフモフしていて癒されるという発想が従来にはない発想で優れている。素材の選択肢も多く、多様な塀が提案・実現できそうである。

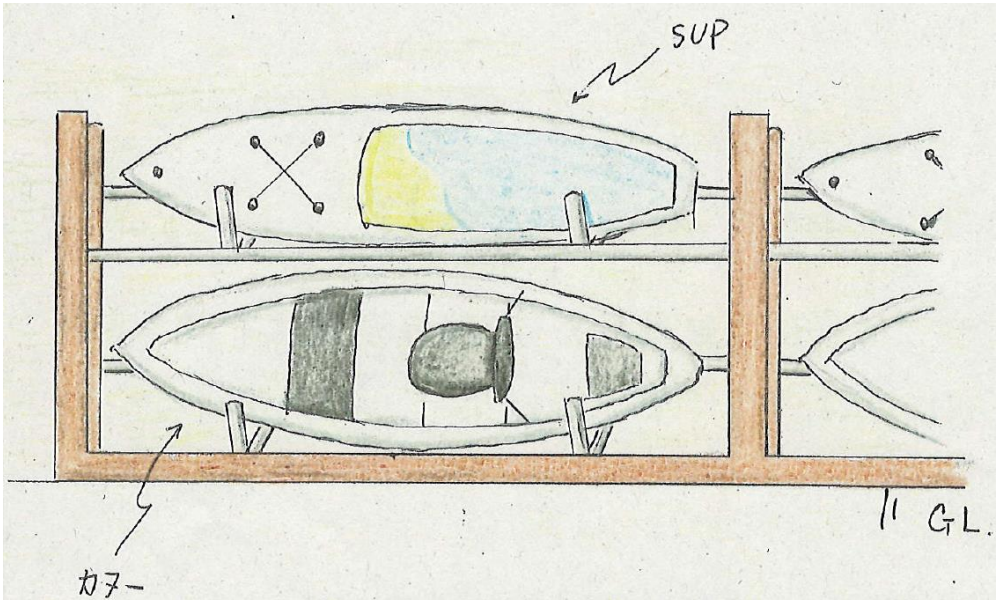
【特別賞】

氏名	濱名　響希
テーマ	テーマ①：家を安全・快適にする塀（多機能に優れた塀や新しい機能をそなえた塀等）
タイトル	温度傾斜センサー搭載の塀
コンセプト （想いや理由）	人が死ぬのを防ぎたい。 素材は粉々にした伊勢エビの殻。
デザイン案 （絵と説明）	
選定理由	温度傾斜センサーという技術を用いて、塀の倒壊から人の命を守るために、塀が粉々になるという発想が優れている。また、由岐の特産品である伊勢エビの殻を材料に使用することで、由岐らしさも入った塀になっていているのも良い。

【特別賞】

氏名	長尾　汐凪
タイトル	テーマ②：町を魅力的にする塀（由岐らしさを生かした塀や由岐の街並みを良くする塀等）
タイトル	由岐っ子売店
コンセプト （想いや理由）	地域の人達の交流が増えるように、商品の売れる場所を設置してほしいです。 箱にお金を入れてから商品を受け取る形です。そのお金は由岐の地域の取り組みに関係する行事に活用してほしいです。 行事黒板の端は、自由にイラストが描ければいいと思います。
デザイン案 （絵と説明）	
選定理由	地域の人達の交流が増えるように、塀に商品販売機能を持たせるという発想がユニークである。また、売り上げを地域の取組や行事に活用するという考えも町を魅力的にする１つの手法だと感心させられた。

【特別賞】

氏名	はまファミリー　代表　浜　祐子
タイトル	テーマ②：町を魅力的にする塀（由岐らしさを生かした塀や由岐の街並みを良くする塀等）
タイトル	海が大好きだ塀（べえ）
コンセプト （想いや理由）	普段は美波の海を満喫し（カヌーやSUPで遊ぶ）、津波来襲時はたとえ逃げ遅れて流されたとしても、カヌーやSUPにつかまれば、命だけは助かるフェイズフリーの塀を提案します。
デザイン案 （絵と説明）	
選定理由	塀に機能を持たせるのではなく、別のものを塀として使用するといった発想が面白く、誰もが自分の趣味やアイデアを生かして多種多様な塀が提案・実現できそうである。また、洪水に対しては、昔から軒先に船を吊っておいて洪水時には救命ボートに使用するといった防災文化があるが、津波に対してはほとんどないので、津波時に救命ボートとしてどこまで使用できるかどうかは別として、自助でできる防災文化として由岐から発信・継承していってほしい。

4.　モデル制作・展示

受賞作品の内、審査員から推薦のあったはまファミリー作「海が好きだ塀」については、人力企画（東由岐字大池 170-5）協力のもと、西の地字志和岐谷 33 にモデル制作を行い、展示（令和３年２月２１日～３月２１日）しました。

写真　はまファミリー作「海が好きだ塀」のモデル展示の風景